



Vol. 242



屋島飛脚

高松屋島ライオンズクラブは50周年を過ぎて、新しい周年、未来に向かって歩み始めた。岩崎会長のもとで、今までと違う新しいことが始まるという期待感にみちている。

年を重ねてきた私たちにあって大切なことは、健康寿命を伸ばすことだと思ふ。自分で歩き、行きたいところへ行き、おいしいものを食べることが一番至福なことだと思いませんか、昔、母親がよく言っていたが、80才で20本の歯を残そうという運動を歯科の先生達が行ってきた。現実にはぐらつかない歯が18本あれば何でも食べられると言われ、沢庵をボリボリと噛み、フランスパンでも、瓦せんべいでもおいしく食べられるそうです。

今年も、年2回つづけている歯の定期健診・クリーニングに行ってきた。これまでの小さなレントゲン写真と違って、大きなモニターに自分の歯が写し出されていた。あらためてよく見ると、左第一大臼歯がなかった。いつ抜かれたのか思い出せない。上側の親知らずは2本抜歯したことを憶えているので、30本の歯が残っていると思っていたが、実数は29本であった。

20年前、52歳の時、歯が痛み、朝、歯磨きの時に出血するようになり、歯医者さんに歯茎がガタガタで歯槽膿漏状態ですよ、このままでは入れ歯生活になりますと驚かされ、歯のケア、クリーニングの指導を受けた。

これまで、歯磨きは朝起床時の1回だけ、歯磨きだけからと歯だけを磨いていた。52才にして、歯磨きは歯と歯茎の間を磨くものであり、1日3回それも、食前ではなくて食後に磨くものと初めて知った。それでも1日3回も磨く気になれず、朝食後と寝る前に風呂場で歯磨きをしている。

歯の平均寿命は70年くらいで、70才以上の人で多くの歯が残っていると、歯を大切にしている人と言える。歯は日ごろからケアをしていると思った以上に長持ちするようです。

皆さん、おいしいものを、食べたいものをいつまでも食べる事が出来るように、年に2〜3回の歯の定期健診・クリーニングをしたいものです。



会長・幹事・RC 就任ご挨拶

会長就任のご挨拶

高松屋島LC会長 岩崎 康誠

この度は、高松屋島ライオンズクラブ第51代の会長を引き受けることとなり、その光栄に身が引き締まる思いです。平成3年入会以来、諸先輩の元で自由奔放にさせて頂いており、この度の会長と言うクラブ全体を引っ張っていく役職に全く自信がありません。しかし、半世紀に亘る諸先輩方々の努力とその歴史に恥じないよう精いっぱい頑張る所存であります。

昨年は、CN50周年という大きな節目の年でありました。また若い新入会員も多々入会され、CN会員はじめ先輩方も一息という思いもあると思いますが、私のスローガンである「温故知新」のとおり、先輩方の積み重ねてきた知識と新しい会員の活力を以って新しい半世紀の第1歩にしたいと思っております。

本年度も高松屋島ライオンズクラブらしい青少年育成・環境保全を中心に全力で活動する所存でありますので、諸先輩はじめ会員皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

何事も楽しい。 楽しいと思えば楽になる。 楽しく活動しましょう。

RC就任のご挨拶

ライオンズクラブ国際協会336-A地区4R・RC 多田 昌弘



この度、高松屋島ライオンズクラブのご推挙により、4RのRC（リジョン・チェアパーソン）にこの7月より就任しております。

RCは香川県東半分22クラブを4人のZCと共に統括するお役目であり、高松屋島ライオンズクラブでは、L宮武義玄、L野上良博依頼、私で3人目の大役であり、ガバナー公式訪問を始めとしていくつかの会を主催しなければならず、岩崎康誠会長を始め、クラブの皆様にはご負担になることが多くなるかも知れませんが、全面的にご協力頂かなければ出来ないお役でもありますので、宜しくお願い致します。

今期は日本より2人目の山田實紘国際会長が就任している年次であり、橋本充好地区ガバナーも国際会長には全面協力しますと言われておりますので、私もそれを踏襲して参りたいと思っております。

メンバー皆様や事務局に支えて頂きながら1年間頑張りますので、ご協力の程お願い申し上げ、RC就任のご挨拶とさせていただきます。

幹事就任のご挨拶



幹事 高島 望

このたび2015-2016屋島ライオンズクラブ幹事を拝命させていただくことになりました。昨年度は田淵会長-三好幹事を中心に屋島ライオンズクラブ50周年という記念すべき1年が無事成功に終わりました。そして51年目の屋島ライオンズクラブがスタートしました。新たな一步を踏み出す年に岩崎会長の元、幹事という大役を拝命したことは名誉であると同時にその責任の重大さにプレッシャーも感じています。御存知のとおり私はライオンズ歴が浅く経験・知識共に諸先輩方と比べると不足しています、至らない点も多々あり皆さまに不満を感じさせるような場面もあるかもしれません。色々な事を勉強させていただきながらの1年になるかと思いますが会員の皆様、事務局の方々には御指導・御協力いただけたら幸いです。皆さんが楽しく参加・奉仕活動ができるようなクラブになるよう微力ではありますが頑張っていきたいと思っております。

委員会方針について

GMT・GLT・家族及び女性・会則・プロとコール委員会
委員長 波多野敬四郎

本年度の高松屋島ライオンズクラブの委員会方針はキャビネットの基本方針を参考にして実践して参ります。4R・RCに、我がクラブのL多田昌弘が就任されています。基本方針を重視されるL多田昌弘であります。

我が委員会では会員増強が第一とします。キャビネットの委員長方針を参考に次に掲げましたので、その基本に基づき、7月の委員会で基本方針を決定しました。

基本方針

- 1) 会員増強目標 5名
- 2) 役員会・各委員会で最低1名の推薦をお願いし、毎月の委員会で候補者と接した時の反応を具体的に報告して頂く。
各委員長より月例委員会で会長に報告、それをGMT・GLT委員会で検討して、対策を検討推進してまいります。

次に、キャビネットの委員会活動方針を掲載しますので、皆様のご強力とご指導をよろしく願い申し上げます。

GMT・GLT・家族及び女性・会則・プロとコール委員会活動基本方針

委員長 中山 土志延 (高知LC)

ライオンズクラブが会員増強を謳う意義を今一度考えてみたい。

ライオンズクラブとは地域社会に奉仕活動行う中で、会員、家族、地域と連携し、それらが少しずつ絆を深めていくものであり、奉仕する喜び、絆が深まる喜び、感謝される存在であることを喜ぶ活動であると私は考えます。

会員が減少すれば、自ずとクラブの例会出席者数、アクティビティ参加者数は低下してくる。アクティビティへの参加者が減ると必然的にアクティビティの規模が縮小し、継続的に行っているアクティビティであればあるほど、以前のような十分な活動ができなくなるのではないだろうか。これまで積み上げてきた会員、家族、地域との絆を会員減少が阻むのではないのでしょうか。

定期的に参加する例会には、志を同じくする会員が集まります。ライオンズに入会し、これまで縁の無かった様々な業種の会員から、仕事のアドバイスだけでなく、多くの事を学ぶ場になる。例会参加が有意義で、自分の人生を豊かするものであれば、「情けは人の為ならず」の先人の名言通り「奉仕は人の為ならず」とそっくり置き換えられるのではないかと思います。

一人でも多くの会員が増えることは、イコール私たちの身の回りが明るくなり、輝きが増し、たく強い絆で結ばれ、その世界でともに生活させていただけることに対する感謝と感動が醸成され、感激の多い日々が構築されてゆくと思います。そうすることによって、ライオンズクラブ会員であることを家族や、従業員、親しい友人に話し、会員であることがいかに有意義であるか伝えていけると思います。

誇れるような奉仕活動、クラブ運営を実践していきましょう。魅力のあるものに、人は自ら魅かれてきます。魅力のないものには見向きもしません。

一人一人が例会を楽しみ、アクティビティを楽しみながら、それを会員増強につなげましょう。

私はその先に、GMT（グローバル会員増強チーム）やGLT（グローバル指導力育成チーム）の役割があると思います。

『「感謝」「感動」「感激」の気持ち、心でWe Serve』というガバナーズローガンのもと、まず魅力的で、特色あるクラブ運営を各クラブに目指すようお願いし、応援を行う。これが私の活動の基本です。

2015～2016 336-A 地区運営基本方針

目標を持てば必ずできる。会長はより高い奉仕の精神を求めて一段でも高い所を目指して挑戦してください。「なせば成る なさねば成らぬ何事も 成らぬは人のなさぬなりけり」を肝に銘じてください。

1 GMT（グローバル会員増強チーム）

会員の減少はクラブの活力や活気がそがれる。結果、さらなる衰退がはじまる。会員は自分が楽しくないのに友達や関係者を招聘できますか。全会員が営業マンになりましょう。

友人や関係者に一声かけましょう。女性会員の獲得も忘れてはなりません。どうしたら出席率が向上するか、例会に行きたくなるかの方策を考えましょう。そしてともに楽しみましょう。

2 GLT（グローバル指導力育成チーム）

一度例会を遠ざかりますと面倒くさくなり、他のスケジュールを優先し、ますます敷居が高くなります。会長は来なくなる例会等を話し合ひましょう。会員同士は会話を楽しみましょう。

欠席がちな会員には必ず電話をしましょう。それでもだめなら訪問しましょう。例会に出席できない理由があります。差しさわりのない範囲で確認しましょう。メンタープログラムもあります。活用してください。

3 GMT・GLT・会則・プロトコール

GMT・GLTと協働し会員増強、指導力育成を強化、推進すると共に、会則やプロトコールの変更 に合わせてクラブに情報を流し、指導力を発揮しましょう。

4 PR・ライオンズ情報・大会参加

会報誌を活用して会員増強を図りましょう。会報誌を配布してライオンズの奉仕活動を地域の人に知ってもらいましょう。奉仕事業を充実するには地区誌や国際協会から送られてくるLIONS誌が参考になります。活用しましょう。

地区年次大会をはじめ各種大会に参加して、大会の内容も大事ですが、友達を増やしましょう。

5 青少年・LCIF・地域奉仕

次世代を担う青少年活動に積極的にかかわりましょう。これからの時代は日本国内だけでなく外国に目を向けなければ対応できません。他国の青少年との交流も大切です。バイリンガルも決して無理ではなく、外国語の重要性のためにも促進しましょう。

LCIF に対する個人献金20\$は定着しつつありますが、149クラブがさらなる努力をして達成しましょう。

ライオンズクラブ国際財団

私たちは206か国135万人のライオンズの心のこもった人道奉仕サービスを支援するために、交付金を支給し世界中の人々の生活を改善するプログラムを開発しています。毎日あらゆる場所で地域社会に希望と変革をもたらす私たちの活動にご参加ください。世界中のライオンズは、他の人々の役に立ちたいという偉大な精神と献身的な活動によって団結しています。

ライオンズクラブ国際協会の正式な慈善組織であるライオンズクラブ国際財団（LCIF）は、ライオンズの地域及び世界での人道奉仕活動に交付金を支給して、ライオンズの善意の活動を支援しています。



納涼家族会（第1222回例会）

花火とマジックショー

2015年8月13日（木）18:30～



今年も花火大会の日に納涼家族会開催。飛鳥に邪魔されながらもきれいな花火を堪能しました。雨が土砂降りでも関係なく花火はあがっていました。子供たちは、マジックショーに大はしゃぎ・真剣に見入っています。楽しい家族会でした。



真田大勢ヴァイオリンリサイタル 高松屋島ライオンズクラブ

[名器ビヨームの調べとともに]

2015年8月8日(土) 香川県立ミュージアム

15:30 開演



去る8月8日、岩崎丸出港後、初めての事業である真田大勢君のチャリティコンサートが開催され、満席の中盛会裏に終了することが出来ました。

聴衆の中には、「アカデミックなコンサートで感激しました」、「入場料は1500円では安すぎるのでは・・・」等々たいへん喜んで頂いたのも嬉しい限りです。

これも偏に、真田大勢君、辻陽子さん(ピアノ伴奏)の素晴らしい演奏と、会員の皆さま方の準備段階からのご協力の賜物と感謝しております。

アクト委員会の第二弾の事業は9月実施予定のチャリティーバザーです。

次回も皆様のご協力をよろしくお願い致します。

ACT委員長 三宅 勝

高松屋島ライオンズクラブ 「真田大勢ヴァイオリンリサイタル」 ー 奥深い音色で聴衆魅了 ー

ライオンズクラブ国際協会 336 A地区4R・4Z
高松屋島ライオンズクラブ 会長 岩崎康誠

昨年全日本学生音楽コンクール全国大会バイオリン部門で、聴衆賞と特別賞を受賞した慶応義塾高校1年の真田大勢君(16)＝高松出身、高松屋島ライオンズクラブ・L真田のご子息＝を迎えリサイタルを8月8日(土曜日)、高松市玉藻町の県立ミュージアム講堂で開催した。特別賞に選ばれたことを受け、サントリー芸術財団から無償貸与された1855年製の名器「ヴィヨーム」で味わい深い音色を奏で会場を埋めた聴衆を魅了した。

CN50周年を終え、51年目最初のアクティビティとしてチャリティリサイタルを行い、入場料などの収益金は、ライオンズクラブ国際財団(LCIF)に全額寄付する目的で行った。また、音楽を通じた青少年の健全育成を目的として、真田君と同年代の高松第一高等学校と香川大学教育学部附属高松中学校の生徒40名を招待した。ピアノ伴奏は、辻陽子さん(岡山在住)が務めた。

3歳からバイオリンを始めた真田君は、中学進学を機に上京。現在は全国コンクールで入賞を重ねながら、海外の演奏会にも出演するなど世界の舞台でも活躍している。

「地元で父の所属する高松屋島ライオンズクラブ主催のリサイタルに出演し、上達したことを、お世話になった古里の皆さんに披露したい」と用意したプログラムは、クラシックの名曲や映画音楽、等の11曲。中でも、サラサーテの「ツィゴイネルワイゼン」で華麗なテクニックを見せると会場から大きな拍手が起こった。

演奏後、真田君は「僕にとって初めてのリサイタル演奏、あっという間の時間でとても幸せだった。また、地元に戻ってきて演奏したい」と感激した様子だった。また、招待した中高生も「同じ高校生とは思えない迫力ある演奏で感無量だった。これからも音楽にもっと精進したい。」と感銘を受けていた。



会長 岩崎康誠 ご挨拶

司会 岡野朱里子

受付のお嬢様
結城喜代美
白川真美江

高松屋島ライオンスクラブ



L 香川雅厚
(写真館の写真です!)

メンバーインタビュー

岩崎新会長のもと、新たな1年が始まりました。記念すべき今年度最初のインタビューはカガワ写真館の香川雅厚さんです。

■創業が大正8年、設立が昭和32年ということですが、当初からこちらで事業をされていたのでしょうか？

香川： そうですね。もともとは今よりは狭かったのですが、少しずつ土地を買い足して行って、今に至ります。このビルは当初は6階建てだったのですが、お隣が売り出したので、それなら買おうと。それでスペースも広がったので、設計を変えて4Fにしました。

■創業100周年も近いですね。

香川： もうじきそうなりますね。先代は父親で、私が二代目。今は息子がやっています。息子は以前はサラリーマンでした。私からは会社を継げとは言わなかったのですが、自分から跡を継ぐと言ってくれました。

でも、孫はやらないでしょうね。孫は会社員で、名古屋にいます。名古屋に転勤になって、わずか半年で営業成績トップになったんですよ。息子は子どもの好きなようにさせてやりたいと言っています。だから何も言えないです(笑)。

■香川さんの現役時代のお話を聞かせてください。

香川： 現役時代は本当に忙しかったです。みんなが遊んでいるときもまったく遊べなかったですね。だから、ライオンズも欠席が多かった(笑)。昔は今と違って白黒のフィルムだったでしょう。現像からすべて自分でやらなければ誰もできないし、してくれない。例えば、写真の修整は鉛筆でやるんです。すごく大変な作業で、目が疲れると駄目ですね。修正鉛筆といってHBの鉛筆を使うのですが、鉛筆の削り方も大事で、芯がしなるような感じにしないといけない。細くしないとしない。かといって、折れてもいけない。この鉛筆を使って、フィルムに書いていきます。その上から修正ニスをつけてガーゼでふくと、鉛筆がのなくなり、失敗したらニスをおとして拭いてやれば簡単にのります。ニスではフィルムがはがれたりしません。修正は本当に時間もかかるし、たいへんな作業です。子どもが小さい頃は、夜にお風呂に入れてあげて、また仕事をして、自分が入るころはもう水になっていました。だから、自分は家では入らないで、近所の銭湯に行っていましたよ(笑)。いろんな作業がありますが、特に冬場の流水を使った作業は辛かったですね。また、写真が引っ付かないようにひたすら並べ替える作業をしなければなりませんし、人様が遊んでいるときでも、とにかく一所懸命働いていました。これらの作業は本当に大事です。フィルムの良いものがないと良い写真はできません。だから他の人に触らせませんでした。やっぱり自分の納得のいくようにやりたかったです。色が薄くても、濃くなってもだめ。ずっとつけておくと濃くなりますが、濃くなると焼くのがたいへんになります。そのぶん光線が通らなくなるので、時間をかけないといけなくなります。そうすると写真がカチンカチンになってしまい、立体感がなくなるんです。とにかく、いろんな工程がありますね。でも、今の時代はそんなことはしません。もうカラーだから。カラーはラボに外注するのが一般的です。利益率は悪くなりますが(笑)。

■白黒からカラーへ。そしてデジタルへと時代は変わってきましたが、どのような変化がありましたか？

香川： 注文は全部インターネットです。自分のところにプリンターがあるわけではないです。公害の問題があって、カラーは廃液を捨ててはいけないので、処理にお金がかかります。だからカラーになってからはどこでもラボに外注していると思います。白黒時代とは随分変わりました。

■デジタルになって、自宅でもプリンターで簡単に良い写真ができるイメージがありますが、いかがでしょうか？

香川： 一般家庭でもプリンターで簡単に印刷できますが、時間が経つにつれ、変色してしまいます。ラボで焼くと時間が経ってもプリンターのように変色しません。我々はお客様からお金をもらっているの、変色されるとやはり困ります。だから、そのへんのプリンターでというわけにはいきません。しかし、最近の新しい技術は若い世代に任せています。昔のものとは全く違いますから（笑）。

■もう写真は撮っていないのでしょうか？

香川： デジタルになったらもう撮れないですよ（笑）。おそらく、僕らの年代はもう誰も撮らないでしょう。パソコンもやらないです。今の時代、撮った写真を選んでもらうのも、パソコン画面を見ながらです。フィルムの頃と違い、いくら撮ってもお金がかからない。現像もしないですから。とにかくたくさん撮って、そこから選ぶことができます。本当に変わりましたね。

■技術面以外でも変わったことがあるように感じます。（展示している写真を見ながら）例えば、結婚式の写真も随分変わりましたね？屋外での撮影などは昔では考えられなかったように思います。

香川： そうですね。スナップ形式が増えました。屋外での撮影には撮影班2人くらいと美容院から2人くらいが同伴します。お客様からはいろんなご要望がありますね。例えば、ひまわりの中で写してほしいとか。そのときは三豊まで行きました。お客様の方がいろいろと調べて、撮影場所を指定されることもたびたびあります。三豊の時などはもう一日がかりです。デジタルなので、とにかくたくさん撮りますから、良いものがたくさん撮れるので、お客様も迷いますよね。あれもいい。これもいいと。時代は変わりましたね。

■ゆめタウンにもお店を出されていますが、あそこは子どもがメインなのではないでしょうか？

香川： 必ずしもそういうわけではありませんが、子どもといえば、七五三の季節は忙しくなります。お子さんの場合、よい写真を撮ろうと思うと、大人以上にたくさん撮影することになります。かなりの枚数から選んでもらうことにはなりますが、ここが勝負どころです。如何にたくさん選んでもらえるか（笑）。若い世代は控えめな人が多いですね。これで十分。もうそんなにいらないと。でも、おじいさんやおばあさんがいると、あれもいい、これもいい、せっかくだから全部してもらいなと（笑）。

■香川さんが撮影して賞を取られた写真があると伺いましたが？

香川： 功労賞のかな？どれかな。いろいろあってもう何がどこにあるかわかりません（笑）。私の作品はすぐには出てきませんが、せっかくだから全部していただきます。

■お話をお聞きして・・・。

今回のインタビューでは、仕事に没頭されていた現役時代のお話や、写真の技術的なことなど幅広いお話を伺うことができ、普段わからない人となりを知ることができました。

インタビュー以外にも、昔のカメラの構造を教えていただいたり、スタジオやご自宅を見せていただくなど、有意義な時間を過ごすことができました。ご協力ありがとうございました。

スタジオでは撮影だけでなく、ときどきコンサートもやっているそうです。興味のある方はぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか？



ワイン同好会報告

本年度の最後のワイン会は6月16日大工町フィガロで開催されました。

今回のワインは、同じ造り手「イル・マックス」による発泡酒、白・赤を選び、白赤とも10年以上も熟成させ完熟状態を飲むことをテーマにしました。

発泡酒は、ブルゴーニュ地方産の白ブドウはシャルドネ種とアリゴテ種、黒ブドウは、ピノ・ノアール種を瓶内で二次醗酵して造っており、シャンパーニュ地方のシャンパンとほぼ同じ味わいになっていました。

ブルゴーニュ地方のシャルドネ種白ワイン、ピノ・ノアール種の赤ワインは共に初リリースの頃は花の香りとか柑橘類トロピカルフルーツのような新鮮味が売りになっていますが、10年以上熟成されてくると、白は黄金色に近づき、赤は褐色になってきます。味も白は、麦わら臭のような熟成感が出てきますし、赤は、トリフや落ち葉のような香りとなり、ジビエ料理にマッチするようになります。

今回は、フィガロの高尾シェフも3種類のワインにマッチするように考えて頂いたもので、皆様完熟ワインと料理に満足されたようです。参加人数も18名が20名となり大盛況でした。

NV Crmant Bourgogne BRUT
1999 Savigny La Boaune
2000 morey Saint Denis



高松屋島ライオンズクラブのPR会報誌がなんとかできあがった。

今年は冷夏になると、長期予報では報じられていたが、7月末から猛暑となり、連日35度以上のうだるような暑さが続いている。昔はたまに猛暑になっても、連日35度以上が10日もつづくことは無かったと思う。先日ゴルフに行き、水分をこまめに、十分に摂ったつもりでも、終わったとき、喉がヒリヒリと乾き、尿は出ず、脱水症状となった。

長い間、表紙絵を飾ってきた故宮本久雄ライオンの屋島を愛する気持ちを心をこめて描かれた作品の後をうけて、今年は屋島の写真で飾ります。佐々木恵美ライオンにお願いして、第1回は久米池に写った逆さ屋島です。

まだまだ暑い日が続くでしょうが、会員の皆様、夏ばて、熱中症、脱水症も予防すれば防ぐことが出来ます。元気に過ごしましょう！



高松屋島ライオンズクラブ

〒760-0041 高松市百間町9-15 TEL : 087-851-8451 FAX : 087-826-3585

2015年7月～2016年6月

■発行日：2015年8月13日

■会長：岩崎康誠 ■幹事：高島 望 ■会計：三好勝博 ■編集：PR大会参加ライオンズ情報委員会